

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第17週 2024年4月22日（月）～ 2024年4月28日（日） 2024年5月2日作成

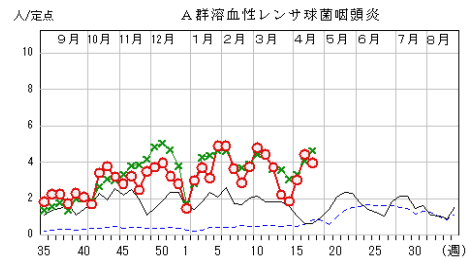
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第17週の報告数は170人で、前週より25人少なく、定点当たりの報告数は3.95であった。

年齢別では、10～14歳（34人）、5歳（24人）、4歳（19人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（13.60）、県央保健所（5.29）、西彼保健所（3.75）であった。

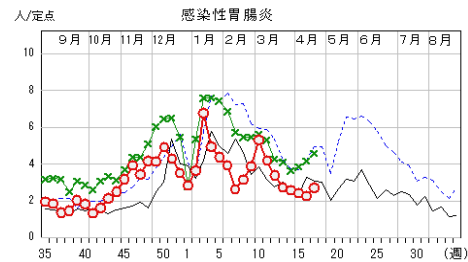


（2） 感染性胃腸炎

第17週の報告数は117人で、前週より17人多く、定点当たりの報告数は2.72であった。

年齢別では、5歳（20人）、4歳（14人）、1歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（7.00）、佐世保市保健所（4.33）であった。

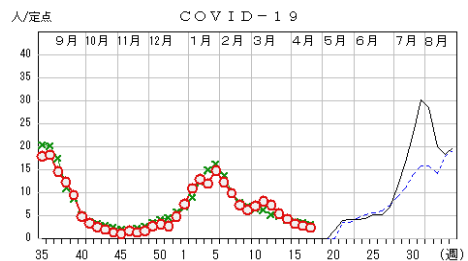


（3） 新型コロナウイルス感染症

第17週の報告数は167人で、前週より29人少なく、定点当たりの報告数は2.42であった。

年齢別では、40～49歳（22人）、20～29歳（19人）、50～59歳（19人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（5.33）、県北保健所（4.25）、県南保健所（4.00）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 ×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：69、小児科定点数：43、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第17週の報告数は170人で、前週より25人少なく、定点当たりの報告数は3.95でした。地区別に見ると県南地区（13.60）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第17週の報告数は117人で、前週より17人多く、定点当たりの報告数は2.72でした。地区別にみると県央地区（7.00）、佐世保地区（4.33）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

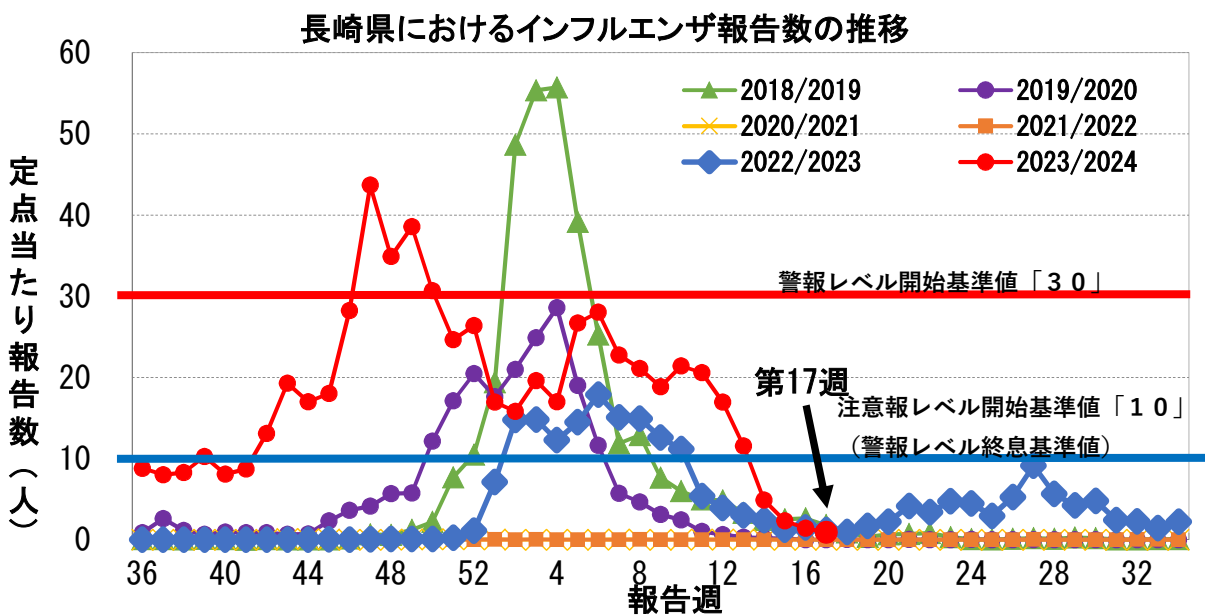
第17週の報告数は167人で、前週より29人少なく、定点当たり報告数は2.42でした。地区別では、対馬地区（5.33）、県北地区（4.25）、県南地区（4.00）は他の地区より多くなっています。県全体では6週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

★トピックス：インフルエンザの定点当たり報告数が「1」を下回りました

インフルエンザの2024年第17週の患者報告数は62人で、前週より36人少なく、定点当たり報告数は「0.90」でした。県内では、2022年第52週（2022年12月26日～2023年1月1日）にインフルエンザの流行期入りの目安である「1.00」を超えて以降、シーズンをまたいで1年以上の流行が続いていましたが、2024年第17週に70週ぶりに1.00を下回りました。

患者数は減少しましたが、今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。



★トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月から増加します。第17週には、日本紅斑熱の報告が2件ありました。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2024年第17週までに4件の報告があり、例年の同時期より多くなっています。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

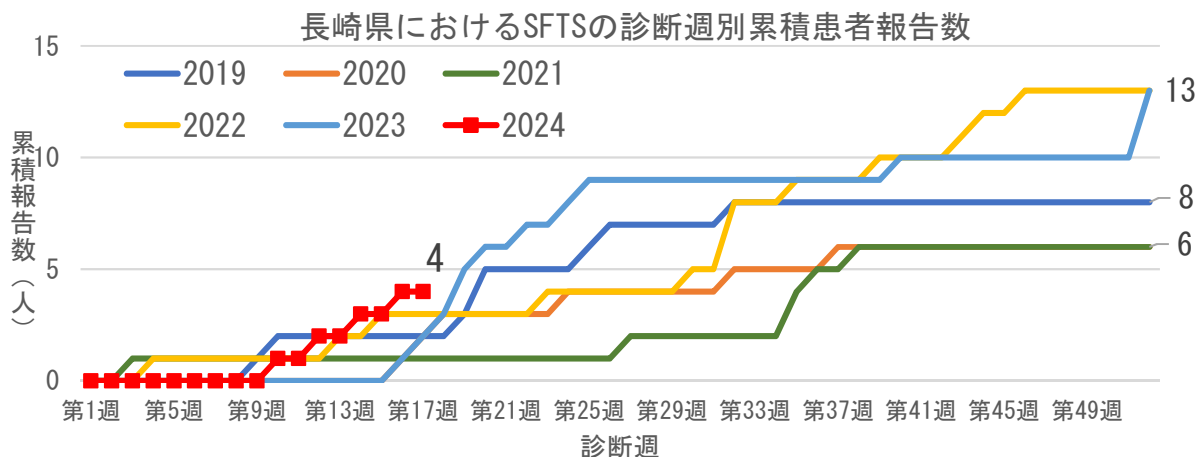
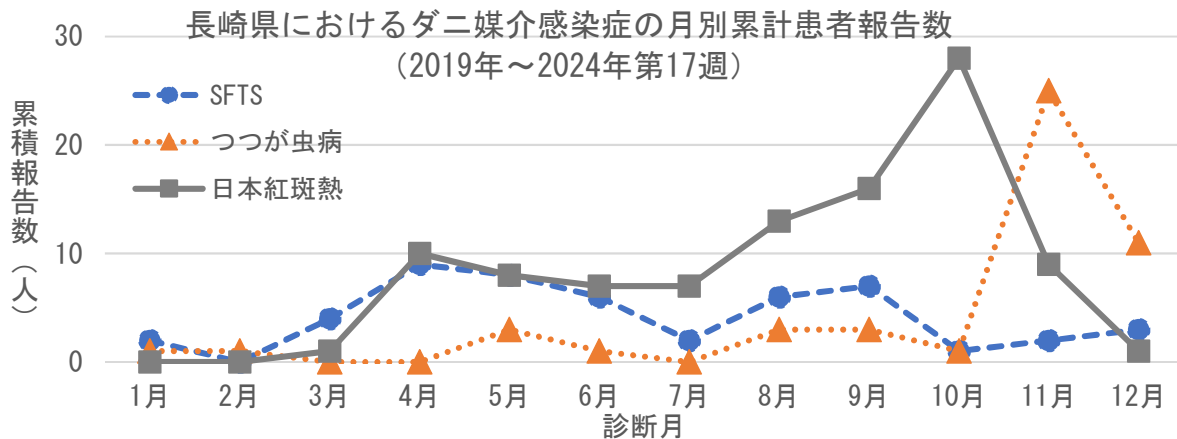
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (2)	6 (2)	6 (1)	13 (3)	13 (2)	4
日本紅斑熱	15 (1)	18 (0)	28 (4)	22 (1)	14 (2)	3
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (1)	1

※()は第17週までの発生件数



◆全数届出の感染症

2類感染症：報告なし

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（10代・1名）

4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（80代以上・1名） 女性（50代・1名）

5類感染症（全数把握対象）：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（70代・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第12～17週、3/18～4/28）

疾患名	定点当たり患者数					
	12週	13週	14週	15週	16週	17週
	3/18～	3/25～	4/1～	4/8～	4/15～	4/22～
インフルエンザ	16.94	11.54	4.87	2.30	1.40	0.90
新型コロナウイルス感染症	7.23	5.41	4.23	3.26	2.80	2.42
RSウイルス感染症	0.05	0.19	0.35	0.61	0.48	0.84
咽頭結膜熱	0.93	0.91	1.30	1.14	1.43	1.12
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.72	2.21	1.84	3.02	4.43	3.95
感染性胃腸炎	3.37	2.74	2.58	2.43	2.27	2.72
水痘	0.07	0.09	0.07	0.16	0.09	0.16
手足口病	0.49	0.26	0.23	0.41	0.68	0.51
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02		0.02	0.02
突発性発しん	0.28	0.26	0.23	0.30	0.41	0.23
ヘルパンギーナ						0.05
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）			0.07		0.05	
急性出血性結膜炎				0.13		
流行性角結膜炎	0.88	0.50	0.38	0.75	0.38	1.00
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎		0.08		0.08	0.25	0.08
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第17週、4/22～4/28） ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.90	1.00	1.25		0.67	1.55	0.13	0.50	1.75		
新型コロナウイルス感染症	2.42	2.27	2.38	1.33	0.83	2.00	4.00	4.25	0.25	2.33	5.33
RSウイルス感染症	0.84	0.17	0.56		0.50	0.14	0.40	7.67	0.33		0.50
咽頭結膜熱	1.12	0.83	0.67	1.00	0.25	1.29	0.80	5.00	1.00		1.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.95	2.17	2.44		3.75	5.29	13.60	2.33	1.33	2.00	
感染性胃腸炎	2.72	4.33	2.78		1.25	7.00	1.20	2.00			
水痘	0.16	0.67	0.22			0.14					
手足口病	0.51		0.89		1.25			3.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02					0.14					
突発性発しん	0.23	0.33	0.22			0.71		0.33			
ヘルパンギーナ	0.05	0.17	0.11								
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.00						4.00		4.00		
細菌性髄膜炎	0.08					1.00					
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08				1.00						
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											